

〔基調講演〕

人間の尊厳と援助技術との関係

福山 和女

施策の変更が教育現場に与える影響

こんにちわ。よろしくお願いいたします。
今ご紹介いただいたなかで、カリフォルニア州立大学バークレー校の大学院修士課程が公衆衛生学専攻であった理由についてお話します。実は当時アメリカではソーシャルワーク学部が、要するに今の日本に似た財政状況のあおりを受けていたのです。それは、連邦政府からの教育現場への補助金の全面カットがありまして、ソーシャルワーク学科・学部のプログラムが運営不振になったのです。私が専攻したのは地域精神保健、コミュニティメンタルヘルスでした。もともとソーシャルワーク部門で展開されていたのが、地方分権化の促進で、身売り申請があり、公衆衛生学部が協議の結果、コミュニティメンタルヘルス専攻プログラムを引き受けたのです。そのため、私が院生としての登録をしたときにはソーシャルワーク学部だったのですが、実際に夏休みが明けて、授業が開始されたときには、「あなたは公衆衛生学部に行きなさい」といわれたのです。それで公衆衛生学部に行ったのです。だから私はカリフォルニア大学バークレー校の修士課程の公衆衛生学研究科に入って、コミュニティメンタルヘルスを専攻したことになります。

現在、日本でも同じことが教育現場で行われていて、ずいぶんと学部の名称も変わってきました。私たちルーテル学院大学も小さな大学であるにもかかわらず、大学の学部名称が総合人間学部に変更され、学部の特性が専門性に影響するのかなと思います。私の経験から、国レベルから地方自治体への移譲がこのような影響を教育現場に与えることを、つまり学問の発展上になんらかの障害を発生させることを、理解しました。

資格のないソーシャルワーカーへの無理解

私は日本に帰ってきて、京都で地域精神衛生の精神科ソーシャルワーカーでがんばってきました。その頃、いちばんつらかったのは、誰も私の専門性を認めてくれなかったことです。その理由は、ソーシャルワーク・ケースワーク・ケアマネジメントなど、その言葉を、誰も知らなかったことがひとつにありました。また、資格をもっていないことから、ソーシャルワーカーとはまがいものと思われたのです。例えば、精神科医との連携で、自分の担当患者のことで話を聞きにいても、必ず言われたことが、「あなたは資格をお持ちですか」と。

私が資格をもっていないことを理由に、患者さんの話をするわけにはいかないということでした。そのとき、専門性とはどのようにアピールすべきか、資格を本当に持っていないければダメなのかなど、すごく苦しみました。そのときに、お医者さんたちが私に言われたことは、「資格がなくこういうふうな行動をされていたら訴えますよ、それでもいいですか」と。私はそれなりにソーシャルワーカーとしての倫理綱領を守っていましたし、職場でも遵守していることを告げ、了解していただきたいとお願ひしました。

その当時、精神科医に2派がありました。それは、ドイツ学派とアメリカ学派。ドイツ学派の先生は、ソーシャルワーカーに対しての理解はなかったのです。それは、ソーシャルワークという援助技術が精神医療の疾患に対して、効果をあげないという論理でした。もう一つのアメリカ学派は、精神疾患の人びとにソーシャルワークをするならば、それなりに支援ができてその人が社会復帰できるとの考え方をもっていたのです。

専門職としての意義

今回のタイトルが『人の尊厳と援助技術との関係』としたのは、要するに専門家として認めてもらうには、どう説明すればいいのか、どのように伝えるのかということが、取り組み課題なのです。

社会福祉士や精神保健福祉士という専門職には、現場で行っている援助実践について、やりがいを感じたその中味を他者に伝えることができないというジレンマがあります。それはなぜかという、例えば、援助で効果が出たとしても、援助をする対象者の個人的な

事実は絶対に開示してはいけないという倫理綱領があるためです。その意味で、私たちは今、専門職であることが、資格を持っているだけでいいのかどうかを問われています。私自身は今、いろいろの現場の専門家たちの研修やスーパービジョンにおいて、専門家が一生懸命働き、その専門性を発揮していることを検証する役割を果たしている状況です。

皆さんにご理解いただきたいのは、たとえば児童福祉施設の職員たちは非常にレベルの高い専門性を持っています。児童の心理や児童福祉の制度・政策などの知識を持ち、しかも一つの理念に基づき、援助技術を使って、施設で子どもたちの支援をしているのです。しかし、彼らは外部者に彼等の仕事を伝えるときには、「わたしは親切なお兄さんであり、お姉さんです、母親の代行のようなものです」と言うそうです。国家資格を持った人がそういういったときに、施設長はこのことをどういうふうに思うだろうか。雇っているスタッフはお兄さんで、お姉さんで優しいひとで、普通の人だと思ったとしたならば、これは、資格の必要性を考えてもらえなくなる。ただ、規定上の配置基準で、専門家を雇っているとの意識だけにすぎない。「これで本当にいいんだろうか」と考えてしまいます。

同様のことが、女性福祉の現場でも言えます。配偶者暴力防止法ができ、DV法の支援というのが今、展開されています。しかし、婦人相談事業の高度、専門化を踏まえた婦人相談所職員の適正な配置が求められている反面、残念なことに、現在支援をしている相談員の専門性は不問という現状であることは否めない。また、人格円満な女性なら配偶者の暴力を受けた人への相談は可能であると考えられ、その上労働条件は非常勤なのです。これならば、国家資格を持って働く職場として

はあまりにも保障が少ない。その意味では、社会の相談業務の専門性についての認知レベルが低いと言えます。

専門職の認知度を高めるには

となると、人の尊厳を保持してがんばってきている援助者の専門性をなんとか認めてもらえるような策を練ることが必要となります。特に実践者が、自分たちの専門性は非常に高いものであると自ら訴えざるをえないと思います。日本では非常に現場の専門家たちの意識も低いし、社会からの認知もとても低い。そういう課題があるなかで、今世界的にも同じ現象が起きていて、福祉分野に注げる財政がなく、カットの対象となっています。私がカリフォルニアにいたところと同じ現象が今、日本でも起きているんだなあとと思っています。

では、私たちは専門家であることをなにごとに検証すればいいのでしょうか、それをパワーポイントにまとめましたので、ちょっと見ていただきたいのです。今回の目的は、ソーシャルワーカーがやっている業務というものが、すべて専門的技術であるということを証明しようということにしました。だから皆さんが、ソーシャルワーカーについてご存じなくても、ちょっとご理解いただきたいことがあります。私自身は、先ほど紹介にあったように精神科ソーシャルワーカーですし、スーパーバイザーとしての役割も担っていますので現在、実践からは離れず、ソーシャルワーカーのアイデンティティをもった専門家です。

家族療学会でも、私は今、副会長をしています。家族療学会のなかでもソーシャ

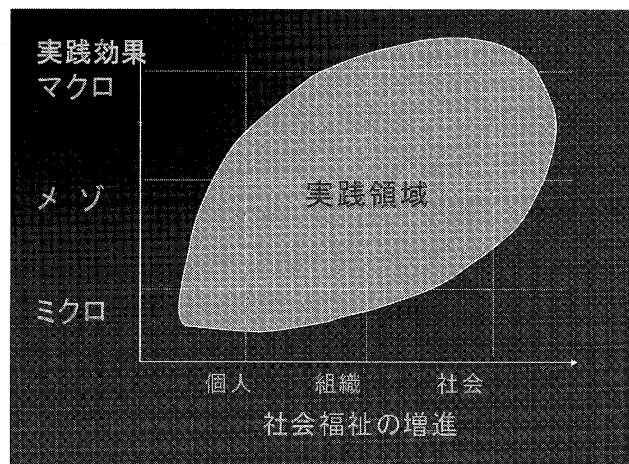
ルワーカーが専門家として援助していることを伝えています。

スライドをお願いします。IFSW「ソーシャルワークの定義」(IFSW; 2000.7.)、

「ソーシャルワーク専門職は、人間の福祉(ウェルビーイング)の増進を目指して、社会の変革を進め、人間関係における問題解決を図り、人々のエンパワメントと解放を促していく。ソーシャルワークは人間の行動と社会システムに関する理論を利用して、人びとがその環境と相互影響し合う接点に介入する。人権と正義の原理は、ソーシャルワークの拠り所とする基盤である。」

国際ソーシャルワーカー連盟は、モントリオール世界大会で2000年に110カ国以上が参加し、ソーシャルワークの専門性の認知を高めたいということからこのような定義を採択しました。ソーシャルワークは広い領域の実践であることを言おうとしているんですが、残念なことに、この定義を読んでも意味がほとんどわからない。こんなに複雑な文章を使って何を主張しようとしているのかについて皆さんに説明します。

スライドをお願いします。



たとえば、ソーシャルワーカーの実践は、人びとに対する援助をしているんですが、実はレベル的には非常に小さな領域から非常に広いものまでを網羅している援助技術を使っています。ひとりの人の援助だけじゃなくて、政策をつくっていくというプロセス全部を含むとすれば、かなり広い範囲の実践をしています。

スライドをお願いします。これを実践領域とすれば、今の定義をどのように落とし込んでいくのかを考えると、まず、人間の福祉の増進を目指すことと、社会の変革を進めることは、マクロ・レベルの社会福祉の増進であるというふうに考えてみる。これは、一人ひとりの援助をしたときにも達成できていることになります。

次に人間関係における問題解決を図ったり、人間の行動と社会システムに関する理論を利用したりすることは、ミクロ・レベルの効果をあげているといえます。これは、一人ひとりの抱えている問題の解決のためにいろんな知識や情報を活用しているので、ミクロ・レベルの効果も出している。

次にエンパワメントと開放を促すことや、環境と相互に影響しあう接点に介入することはたった一人のソーシャルワーカーがやってできているものではなくて、そこの集団のところで事業体、たとえば、施設や機関が行うものですが、これもソーシャルワーカーとして達成可能なものなのです。特に、人種差別に関してとか障害者に対する差別・偏見に関する開放を促すことは、必死になって今私たちがやっています。それで、この力や活動の動機づけを、人権と社会正義の原理が支えているのです。この原理は、非常に普遍的なもので、これを私たちはマクロ・レベルの効果として考えたいと思います。

専門性を保証する3つのレベル

- ミクロ・レベルの効果を出すために用いる技術
- メゾ・レベルの効果を出すために用いる技術
- マクロ・レベルの効果を出すために用いる技術

以上、実践では、大きく分けて、ミクロ・レベルの効果、メゾ・レベルの効果、マクロ・レベルの効果、を出すために3つの技術を日々の支援で使っていると考えられます。

次をお願いします。

ミクロ・レベル

個人や家族に対して、社会福祉の増進を図る技術には、ソーシャルケースワーク／ソーシャルワーク・リサーチ／ケアマネジメント／ケアワークがある。

このミクロって何を指すのか。ミクロ・レベルは、個人や家族が問題を抱えているとき支援して、その家族や個人が自分たちのニーズの充足が達成すれば、それを実践の効果と考えます。それでその実践の効果を、社会福祉の増進を図る技術とします。

次をお願いします。

メゾ・レベル

事業所や職能集団などが社会福祉の増進を図るために用いる技術には、ソーシャルグループワーク／ソーシャルワーク・リサーチ／スーパービジョン：コンサルテーション／ソーシャル・アドミニストレーション／ネット

ワーキングがある。

メゾ・レベルの、事業所、職能集団などが社会福祉の増進を図るために用いる技術としては、また別のものをもっています。これは施設運営とかそのスタッフに対する研修とかそういうものも含めています。そういうメゾ・レベルの効果を出すことによって、ミクロ・レベルとマクロ・レベルの社会福祉の増進を図るために貢献していると考えられます。

次どうぞ。

マクロ・レベル

地域社会の社会福祉の増進を図るための技術には、ソーシャルプランニング／コミュニティー・ワーク／ソーシャルワーク・リサーチがある。

マクロ・レベルは、地域社会全体の社会福祉の増進を図るための技術です。その意味ではソーシャル・アクションとかソーシャル・プランニングとかコミュニティワークや調査も入ってきます。これをみると実践領域が広いことがわかります。ひとりの人の問題を解決しようとするれば、降りかかっている影響要因すべてを解決しなければならないということで、このくらいの広い効果を出さなければ、私たちはソーシャルワーク援助をしたとはいえないのです。

次に、倫理基準にそった技術として私たちが規定しているものがあります。たとえば対象者に対する倫理責任を私たちが果たしていることで、専門家であることを示したい。専門家が専門家としてやっていることの保証のルールを、まず利用者に対する倫理責任、次

に実践現場における倫理責任、社会に対する倫理責任、そして専門職としての倫理責任として規定している。この倫理基準全般は、先ほどこっちと申し上げたミクロからマクロまでのそういう実践の保証をするためのものになってきます。このように保証すれば、専門家は、自分がちゃんとやっているんだという認識も高まるのではないかと思います。

次に具体的などころで、倫理綱領が守られていることの一例を示します。利用者の方が、あなたにこんなことまでしてもらって感謝していますといったときに、普通の人ならどう言うのか、ソーシャルワーカーなら、どういうふうに言うのでしょうか。この方の夫が死亡しており、ご自身は65歳で腰痛があります。それで、息子さん40歳なんです。この65歳の方が、「まあ、恐れ入ります、あなたに来ていただいてこんなことまで聞いていただいて…」と、この次の言葉について考えてもらいたいんです。

中根

本当ならば息子がやるべきところを他人のあなたがやってくれてありがとうございます。

福山

なるほど、ありがとうございます。それもひとつですね。はい。

狗巻

えっと、腰痛がひどいんで、自分でできないことがあるんで、こんなことまでしてくれてありがとうございます。

福山

ああ、腰痛がひどすぎて自分ではもうでき

ないから。はい。

加瀬部

わたしも、腰痛で、介護が…息子にもやってもらってるんで…

そうですか、みなさん腰痛にひっかかっていますねえ。こういうふうな情報だけで、もし、このひとがこういうふうに言ったならば、いろんな可能性がある。今言ってくださった4つとも全部、そういう可能性があるなと思うんです。しかし実は、もうちょっと情報が必要だと思うんです。そのときに、夫は10年前に死亡されたそうなんです。それから、この奥さんは、腰痛が激しくて四つんばいでしか歩けないそうなんです。それから、息子さん40歳なんだけど、IQが40なんです。となると、この母親が、ソーシャルワーカーの支援に対していう言葉はどのように変化しますか。

高原

状況が、困難ですよ。ソーシャルワーカーが支援したことは当然のことですよ、お母さん、とか。

福山

そうですか。はい。どうですか。

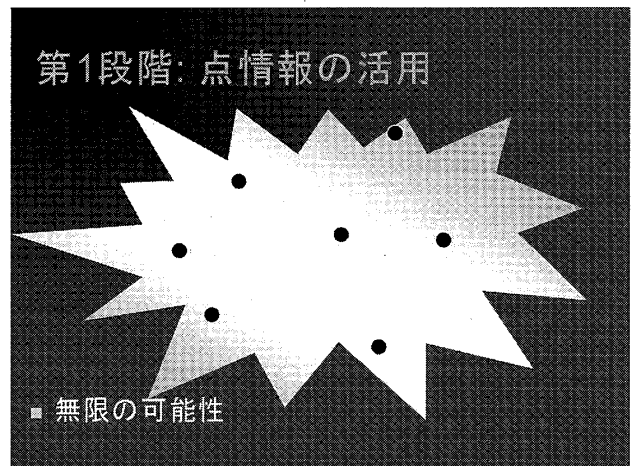
板倉さん

IQ40の息子さんを育てておられるというのはすごく大変なことだと思いますし、ひとりでそういう息子さんを抱えていらっしゃるということと、相談相手がいないということと、腰痛という困難をかかえているという状況なので、もう少しお話を聞きたいと思います。もう少し具体的な抱えている困難があっ

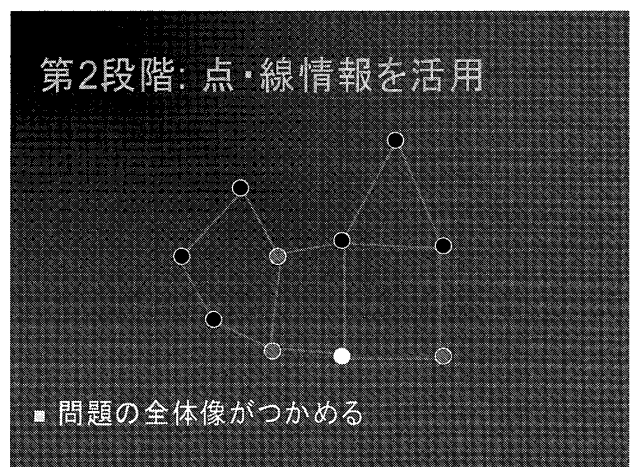
たら教えてください。

今言われたように、このようにすごく厳しい状況にあり、わざわざきていただいてありがとうございますといわれたときには、今おっしゃってくださったもの、全部使えますよね。そうすると、私たちは、得た情報でその人がどういうことを意図しているのかとか、その人のなかではなにがニーズなんだろうっていうことを判定しなければなりません。

次お願いします。



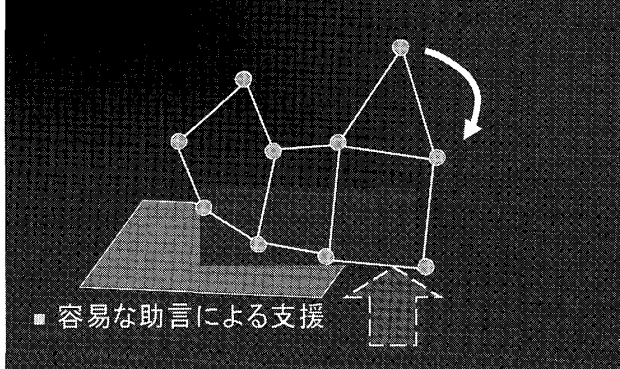
じつは、今みたいな情報を私自身は点情報とか線情報とか言っています。というのは、関係性を表す情報や、完結した情報であれば、ひとつのことばでそれだけの状態がわかる。



このふたつのレベルの情報を活用した場合には、この人たちがとても大変な状況下に入

っていることを理解できます。しかし、もうひとつ状況を増やします。

第3段階: 点・線・断面情報の活用 (印象>観念)



それは、ケアマネジャーが在宅訪問をする。介護保険の申請のために、いろいろと情報収集に入ります。母親とその状況を把握して、介護保険が使えるかどうかを判断する。母親は家のなかにおいて、ケアマネジャーは訪問したときに、入り口から観察をしている。家がとてもきれいに整理整頓されていて、母親は居間で横になって寝ている。母親の顔をみるとその表情は眉間にしわを寄せて、「とても痛い」、「四つんばいでしか這うことができない状況です」という話だった。そこでケアマネジャーが介護保険について書類を見せて、説明をしました。それを説明しているときに、お母さんは、「じつは私は今病院に通院しています。週二回の通院をしており、息子が私の介助をしてくれております、だから病院の通院は息子がちゃんとやってくれています」という話だったのです。介護保険を使わせてもらえるならば、ありがたいと思いますといっていたのです。

申請書類を出したとき、母親は「じつは私には息子がおりましてその息子は知的障害です、でIQ40なんですけどただいまのところ授産所というところで毎朝、朝からお昼2時まで働いています。それでこの息子が意見を述

べないといけないでしょうから、要するにインフォームド・コンセントといって同意書に家族がサインをしないといけないと思いますので、息子にそれをやらせたい。だから恐れ入りますが、もう一度ケアマネジャーの方にご足労願って申し訳ないんですけど、2時になったら必ず帰って参りますから会ってやってください」と言った。

2時にそのケアマネジャーさんは来て、息子が母親の指示によって、甲斐甲斐しく母親の介護をしている。ケアマネジャーと息子が話しをしているのを、お母さんは痛い痛いって言いながら、床から見ていた。そこでケアマネジャーは、「どうでしょうか、使えそうだと思いますからお使いになりますか、あなたが賛成してくれたら使えるんですよ」と息子に言った。息子は「うん、いいかも」と言った。そこで、あなたが賛成してくださるんですしたらそのようにさせていただきます、といって母親に向かい、「書類にサインしてくださいますか」と言った。母親が眉間のしわがぱっととれて、痛みが消え、今まで寝てたのが起きて、「ちょっとすいませんケアマネさん、不思議なことがおきました。申し訳ないんだけど、ちょっとそのサービスを使うのは見送りにしたい」といいました。「なぜか」といって、痛みが取れたので、これだやってみようかなので、まだ公のサービスは使う必要がないように思います。だからまたの機会にさせていただきます」って言ったのです。このケアマネジャーは、だんだんと居心地が悪くなってきたのです。それで事業所に帰って所長に報告するのになんと言ったかというと、「ここの家族の方は、あまりご理解がないようです、それでどうもこの方々は、公のサービスを使うことに抵抗がありそうです。この抵抗があるばかりにここの家族は多

問題家族です。困難事例かと思われます」と。

それを聞いた所長さんは、「本当に困難事例なのか、あなたがちゃんと専門性を発揮したのかを証明しなさい」と指示した。それをみなさんが、一緒に証明をしてあげてほしいのです。

たとえば、このケアマネジャーは、本当に専門家として振舞ったかどうか。たとえば、知的障害を後天的であるとしたか先天的であるとしたか、ということなのですが、これは実際には先天性のものです。先天性というのは、生まれてでなくて生まれる前にこのような状況下にあったということなので、40年間の母親と息子の知的障害に対する取り組みを認めたかどうか。ケアマネジャーは認めてないんです。知的障害は知的障害としてほんと置いておいて、それで先天性であることは認めているんですけども、家族が知的障害、つまり障害福祉のいろんなサービスを使って子どもを育ててきているというふうなことをケアマネジャーは全然考えていなかった、ということがあります。

それから、次に、息子が「うん、いいかも」っていった言葉を、このケアマネジャーは、「あなた同意してくださったんですね」といいました。このことはケアマネジャーが専門家として解釈したとは思えない。IQ40というのは、抽象概念が全然分からないので、いろいろとケアマネジャーが説明したことは、全部抽象概念だったので、無理だった。ところがあなたも同意してくれたんですねって言ってしまった。

そういう言葉をつかったということは、この母親が変化を起こしていることにも気づかなかったということで、「うん、いいかも」ってというのは全くわからんと言ったことだと

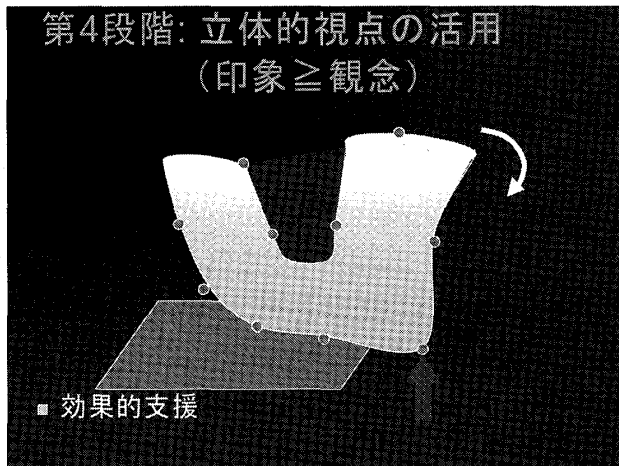
理解してほしい。

母親の痛みが消えた。それは、息子の常日ごろの反応を知っているから、今回もやっぱりこの子はわかってくれなかったという思いがあって、母親は息子のために、自分は一生懸命息子の力を借りたいと思って、他のサービスを使わないっていうことを決心したところがある。

家のなかが整理整頓されていたことを、このケアマネジャーは母親が非常にきれい好きだと思っちゃった。だから、物事をちゃんと整理していて、子どもを使って掃除をきちっとさせているんじゃないかと思ったんです。しかしこれは、IQ40っていう場合は、ちょっとでも物が、秩序が乱れると不安定になる。それで、生まれたときから物の場所っていうのは同じ場所に置いている。だから、一見整理整頓されているように見えるんだけど、それはそうせざるを得ない状態で、ここに親子の取り組みがあるのに、それを認めていなかった。

また、息子への説明方法が同じ書類を使っていて、文字で記したものを使ったということで、このケアマネジャーはIQ40の男の人の理解力について考えていなかった。通常ならばこれは授産所の担当者に尋ねるなど工夫をして欲しい。実はケアマネジャーのイメージでは40歳で男性ならばハキハキと働くことが当たり前だったんです。それから、屈強な体つきで母親の介護ができるので、その意味ではしっかりしていて、働き盛りの男性というイメージがあったので、ものすごくよくできる人だと思っちゃった。そういう意味で、普遍化された社会の40歳男性のイメージが先に出てしまっているがために、こういう支援のときに言葉遣いが変わってきた。そう考えると、専門性は、あまり見られない。

じつは専門家がしっかりと知識を使って支援すれば、的確な支援ができるのにもかかわらず、この矢印の太さを見てください。こんな太いサービス提供を考えてしまったということなんです。専門的に考えをちゃんとしていけば、このぐらいの細さですんだということなんですけれど。



現在福祉の分野で専門性の確認がまだされていないために、社会資源が非常に不足していて、なんにもできないと言われています。しかし、ひとつの資源をひとりの人が活用するだけじゃなくて、ひとつの資源を何人かがいろんな状況下で活用するという多元活用の必要性が今いわれています。そういう意味で、専門家は、的確な、効果的な支援をやらねばならないとされています。

そのためにも人の理解を、ニーズを6つの側面で捉えることを提案しています。

- 1 心理的側面
- 2 精神的側面
- 3 物理的・物質的・環境的側面
- 4 社会的側面
- 5 身体的側面
- 6 霊的側面

私たちは一つひとつ科学的な理論や知識を根拠に実践をしなければ、人の尊厳の保持っ

てというのは難しいと考えています。人を尊重することだけで専門性を生かすのでは不十分であり、むしろ人の尊厳に基づく支援というのはその人自身の存在価値を全部認めたうえでのものであろうと考えています。その意味で、倫理綱領に照らし合わせながら自分たちの実践を証明していこうと、そして、自分たちは障害の解決ではなくて、障害をもっている人が日々生活をしていくための支援をするのが専門的であるといえるのではないかと、今そこに至っています。

まだまだその専門性の証明は難しい段階です。いままではいかに技術と倫理綱領とか専門知識とが乖離していたかが言われています。残念なことなんですけれど、社会福祉士という国家資格をもっている人が、自分たちの倫理綱領を見たのは100人いた中のたった1割だったんです。それで今は現場で社会福祉士会の研修の連携をとって、まず倫理綱領をちゃんと実践で生かしているということを証明していこう。特に人の尊厳というのがしっかりと含まれているんだということを証明していこうじゃないかということで、私の感じでは尊厳という言葉はミクロではなくてマクロ・レベルのものとして捉えていかねばならないと考えています。少し問題提示をさせていただきました。

〔質疑応答〕

上掛

どうもありがとうございます。お話をうかがってすぐに確かめておきたい点のある方は、今出していただいて、意見や何かはあとで議論のなかで出していただくということにしたいと思います。ございませんでしょうか。はい、どうぞ。

小沢

ありがとうございます。経済学を専門にしている小沢といいます。今のお話のなかで、事例のことなんですが、母親の痛みが取れてぱっと元気になられたというのが、なぜなのかというのが、ちょっとまだ私理解できないのですが。先生のご判断はいかがでしょうか。

福山

ありがとうございます。あとで母親に面接をしたところ、深い訳がありました。というのは、知的障害の息子は、今回自立支援法の前に支援費制度っていうものが確立されたよね。そのときに、就労支援をうけることになってね、それで会社に行かせてもらえることになった。そのときは会社の方が、思ったよりもできるんですねっておっしゃったそうなんです。それで採用が決まって、2週間後にジョブコーチが去ったときに、はじめて会社の方がこんなにもできないのかっていうのがわかり、クビにしたんです。これが3回続いたんです。それでお母さんは自分の息子が、40歳になるので、自立してもらいたいけれども、こんなにも社会で認められない状況なのかということをつくづく思っていて、

それで現在自分の介護をしてもらっている。

つまり、息子としての役割を十分に果たさせたいという考えがあったので、わからんといった息子を見て、これはもう無理だと思い、公のサービスを使う代わりに息子には息子の役割を果たさせてやりたいと思ったそうです。だから、息子にありがとうねって、あなたは息子としてがんばってくれているっていうことを証明しようとしたのです。だから、眉間のしわが、先生がおっしゃったようにとれたのは、我慢したそうです。ケアマネジャーにはそれは見抜けなかった。

本来ならば、IQが40であれば、どういう説明をしたらいいのかとか、全部準備するはずですよ。それが福祉の専門家でしょ、先生がおっしゃったように不思議な現象なんですよね。

ところが、ケアマネジャーはなんと言ったかということ、お母さんが仮病だったと思った。こういう事例の場合でも、母と息子は知的障害に関してはプロであり、ずーっと取り組んできているんです、だから施設にもたぶん入っていたであろうし、それから作業のことにしても訓練を受けていただろうし、母親もいろんなことをやってきた。知的障害に関しては、ケアマネジャー以上に知識をもっている人なんです。たまたまお母さんが腰痛のために介護保険を使わざるを得ないという状況だった。ケアマネジャーが本当に専門性を活用していれば、障害福祉のことくらいは理解しておくべきだったということです。

それが、ほんとに不思議だったですね。ケアマネジャーは、腰痛が発生したときの状況把握が中心で、それまでのこの親子の取り組みに目をやらない。そういう意味の尊厳は全然保持されていないと思われます。ただサービスの説明をすればいいと思っていたんじゃない

ないかなと思いますけど。これは実例なんです。

実際に母親からの話では、本当はものすごく痛かったんだと、だけどここで息子がいる前で私が公のサービスを使いたいって言ったら、息子はがっかりするだろうということも考えた。ありがとうございます。そういうふうな状況です。ところで、先生はどうしてそれを疑問に思ってくださったかをおっしゃっていただければありがたいです。

小沢

最初の「あなたにこんなことまでしてもらって感謝しています」というのがありますよね。私はおそらくその、点情報を与えられたときに、すごくそのお母さんが、社会とのかかわりというよりも、障害をもった息子との関係では、家の内に抱え込んで、自分の努力と息子のがんばりで、おそらくここまできたというふうに思っています。でも腰痛になってしまって、社会の援助を受けなければならぬけれども、できたらこれまでやってきたように自分の家庭内というか家の中のことというか、プライベートなところでがんばりたい。それにもかかわらず、きてもらってありがとうございますという、ほんまはもっとがんばりたいのという、なんか複雑な、社会の援助と、これまで何十年とやってきたギャップがそういう言葉になったのかなと考えました。

そうすると最後のところで、ケアマネジャーの方がこの事例は問題ですと片付けるといふのは、全然ことの本質を分かってないということになる。ただそうだとするとなぜ痛みが取れたのかがわからなかったんですが、今ご説明にあるように、やっぱりそこでがんばらんと、踏ん張らんとあかんということ、開き直ったということになったのかと。

だけど、そこには、自分のとこで抱え込んでやれるところと、もっとひどくなったときには、援助を求めない限り、問題解決ができない。単なるその場しのぎの対症療法的な解決は、問題の先延ばしということではないかなと思っています。社会の側からすると、しっかりとお母さんと息子の状況については、把握しつづけたうえで、関わりをどういうふうにしていったらいいか。利用者からの思いを受け止めながらどうつないでいくのかということ、ずっと考えていかんとあかん、と思いました。

福山

はい、ありがとうございます。今先生おっしゃったのはとても重要です。だから、このケアマネジャーがね、「あっそうですか」といって帰っていったのがまずくって、「あなたがいまできていることは認めますので、もしも熱を出されたり、風邪をひかれたりして、お母さんが動けなくなったときには、私どもはいろんなサービスが提供できますので、そのときはどうぞお電話してください」とか、今先生おっしゃったように、「見守りをしたいと思いますから、月に一度訪問いたしますから、よろしく」と言えばよかったんですよ。ところがそれを言わなかったのです。

決して障害のもっている人の家族っていうのは、閉じこもっているんじゃないんです。社会制度とかを全部使っています。使わざるを得ないんです。社会福祉の制度を使わずに生活することはできないので、抱え込みはあんまりないです、ここの家族は。だけど、自分たちもやっているんだってことの証明をやっぱりやっていると思うので、だから「ありがとうございます」って言われたら、この事例の場合だったら、もしかして、「お

母さんはそのようにお考えだってことはよく分かりましたけれども、われわれにできることは、こういうときにこういうことができます」という説明が、やっぱり必要だったのかもしれません。

今、先生がおっしゃってくださったように、人の存在価値を認めるっていうときには、これまでの取り組みと今からどうするかについてのアセスメントやプランを立てることが必要なのですが、なぜかいまのところ、忙しいとか、担当している量が多いとかで、現状況下での支援のみを話しているように思える。さきほどの段階でいえば、断面理解のところでは対応している人たちが多くなっているという現状です。ありがとうございました。

上掛

ほかにありませんでしょうか。私のほうからひとつよろしいでしょうか。援助技術の倫理綱領を实践で生かす事例として非常によくわかったのですが、最後のところでいわれた、人間の尊厳についてはミクロではなくマクロということについて、たとえばケアマネジャーですと所属がございしますが、事業所ですか施設ですか、そういう所に所属しているソーシャルワーカーが考える場合、マクロ・レベルの人間の福祉の増進と社会の変革という中身について、その関係をもう少しお話いただければありがたいのですが。

福山

ありがとうございました。たぶんあとで中村先生、山野先生がおっしゃってくださると思うんですけども、たとえばこういうケアマネジャーが、社会福祉援助技術論を学んでいるのです。それは、私たちにとってソーシャルワークの理解だと思うんですけども、今先

生がおっしゃってくださったように、ケアマネジャーというのはミクロ・レベルで人の充足を一生懸命考える人たちなんです。だから、こういうときにもしもこの方々が広い意味で、地域の、たとえば障害者福祉や、それから知的障害福祉の支援に貢献しているという考えをもってもらえれば、もっと多職種の連携とか他機関との連携を考えると思うのです。ところが個人のニーズ充足だけを考えているがために、自分の振る舞いで全部解決しようとしているのです。さっき先生がおっしゃったのもそれに近いと思うんです。だからこれはやっぱりミクロ・レベルの実践の域を超えないものとなっています。

行政との連携をとることも必要ですね。たとえば知的障害の息子が、これから生活していくこともケアマネジャーの範疇で何か生かせないとか。そして地域におけるそういう事実をきちんと行政に知らせていく任務もあるかと思うんです。しかし、あまり知らせていないですね。個人情報保護法が誤解されて伝わっていて、しかし、逆に言えばそんなに難しいことではなくて、個人に関する情報だけは隠して、普遍化したものはいえると考えます。その意味のマクロの貢献をちゃんと視野にいれて支援をしなければ、私たちソーシャルワークっていうのはほんとに狭い対人援助の専門技術でイコール面接技術くらいになるんじゃないかって考えているんですけども。ありがとうございました。